



佐藤成子 議員

## 未来につなげていくために 除雪体制・逸品展の推進は

### 町長——生活に密着した除雪体制の確立 逸品展の充実と販路拡大につなげる

**議員** 今冬の豪雪のなか、現在の流雪溝の整備状況は、

**町長** 真室川地区は、東町・宮町地区中心区域、整備延長1万7千818m、川の内地区は農業用水兼用流雪溝として約500m、安楽城地区は砂子沢地区、農業用水兼用流雪溝として約940m、及位地区については、釜淵5・6地区で真室川よりポンプアップで取水するタイプで約941m、八敷代地区で約400m、新及位地区は、約308mとなっている。町の約38%、1025世帯が利用している。

今後の整備計画は、東町1地区を中心とした区域で、整備延長約700m、受益者戸数約30戸を計画している。

**議員** 冬期間こそ安心安全に暮らせる除雪体制の基盤づくりは、

**町長** 町の除雪体制はオペレーターを雇用する直営方式である。1kmあたりにかかる除雪費を比較

した場合、直営の当町では1kmあたり53万2,833円ですが委託方式をとっている新庄市では141万2,500円と約2.65倍になっており、直営方式は財政的に大きなメリットがある。除雪の質についてもオペレーターに直接指導が出来ることから、委託方式よりも安全な道の確保ができる。

今後は、各路線の通過時間帯の再調査を行いながら、通勤路線、通学路線に際した除雪ルートを再検討し、生活に密着した除雪体制の確立を目指していく。

来年度については、各地区の河川敷等に排雪場所の確保を図りながら克雪を推進し、安心安全に暮らせる環境基盤づくりに務めていく。

**議員** 「まむろがわ逸品展」真室川ブランド普及推進について、

**町長** 逸品展は、真室川町で長年にわたり愛され続けてきた数々の物産、



まむろがわ逸品展

特産品「真室川ブランド認定品」や、新たな研究や試みから生みだされている、または、生み出されようとしている最新の特産品を一堂に集め、生産者や製造者自らが展示、紹介、試食、販売等を行う、直接消費者と接することにより、真室川ブランドの認知度を向上させ、物産を通じて真室川町そのもののイメージを高め、広める機会とすることを目的としている。

6回目となる今年度のイベントは、「春まちとした副題」とおり、旬を迎える、促成山菜や、保成山菜による郷土料理等にもスポットをあて、春を待つ新しい真室川町の姿を魅力的に紹介し、情報発信することを目指している。

**議員** 今後の動向・対策特に強化していく点は、

**町長** 出店者、事業者、関係団体と協議し、具体的な販路拡大につなげるためのパイヤーや町の魅力発信をしてもらえる情報発信力のあるゲスト、もがみ北部商工会と連携した町外招致の特別ブース設置などを検討しながら、より強く取り組みをしていく。

ここが聞きたい!

ついて伺う。

**産業課長** 3月19日が締切で1件の応募があった。問 新規学校コンピュータ更新事業981万5千円について、

**教育課長** 平成15年に導入したコンピュータも古く不具合が多くなったので、各学校の利用率が多く、先生の合理化にも必要なため、平成25年にあさひ小29台、北部小29台を導入する。

問 差首鍋地区生涯学習センターの開設について伺う。

**教育課長** 学校統合による閉校の校舎利用について現在も利用していない学校もあるが旧差首鍋小・生涯学習センターの利用は地域の活動の起点として児童の児童展の展示、昔ばなしの正弥先生の挿絵の展示、ハ丁トンボの展示に利用。また町内外との交流、地域の活動に活用して地域の区長と相談のうえ行っている。



パソコンを使った授業風景

問 冬季交通について、**建設課長** 苦情の処置、除雪については個々の電話にも対応している。

問 心豊かな人と文化を育む町づくり、新規学校緊急連絡網整備事業5万6千円について伺う。

**教育課長** 子ども達の学校における安心安全の確保のため緊急時に対応する連絡網である。全小中学校に配備、導入していく。父兄の参加は90%に至っている。

問 健康と福祉の町づく

りの過去と新規事業について伺う。

**福祉課長** 平成14年ヘルスケアセンター真室川を開設、医療と福祉の一体化を図り10年間行った。町の支援単独事業として新規に不妊治療助成事業を行う。内容は年間8件特定不妊治療につき10万円を限度に補助、治療開始年度から通算5年次まで年3回行う。子育て支援について次世代育成後期計画をもとに認定子ども園事業の拡大、平成25年度においてもこの子育て支援計画を作成して事業を進めたい。新規に未熟児養育医療費給付事業を行う。内容は未熟児の入院養育費の給付であり、自己負担分は子育て支援医療給付事業補助と合わせて実質無料となる。



委員長 佐藤 一廣

## 予算審査特別委員長報告

本委員会は、平成25年度真室川町8会計、総額78億円を超える予算案について慎重に審議し、満場一致をもって可決いたしました。委員会審査の過程において、梅里苑事業特別会計に組み入れて運営すべきである。

### 一般会計

町の活性化につなげる事業として新たに、6次産業化推進に力を注ぎようとしている。企業誘致が難しい当町にとって、基幹産業である農業の6次産業化は新たな雇用を生み出す施策として期待するものである。

全国的に有名な「真室川音頭」の発信と併せ、「ゆるキャラ」なども大いに活用し、町内外へのPRに努力された。毎年度指摘事項となっている公金の滞納繰越分については、徴収の改善はされているものの、負担の公平性を期すためなお一層の努力をされた。

**特別会計**

遊楽館施設管理費が一般会計に計上されているが実質的に梅里苑が業務に当たっている部分については、梅里苑事業特別会計に組み入れて運営すべきである。

町立真室川病院事業会計においては、全ての町民が安心して受診できるように今後も医師確保に努め、特に診療所の診療体制を早急に確立するよう努力されたい。

以上、厳しい財政状況の中で、適正で効率の良い運用を図られ、住民サービスの向上に努められることを望みます。